

第 3 章

各校種の授業等における展開例



小学校編

1

小学校1・2年生（地震）

「じしんがおきたらどうする？」

2

小学校3・4年生（雪害・風水害）

「雪がい・風水がいマップを作ろう」

3

小学校5・6年生（津波）

「津波がきたらどうする？」

～シミュレーション～



◆小学校1・2年生（地震）

1 題材名 「じしんがおきたらどうする？」 学級活動（2）

2 題材の目標

授業中や登下校中など、様々な場面で地震が起きた時の危険について知り、それらの危険を予測し、回避しなければならないことを理解する。

3 展開例

主な学習活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 地震発生時の様子を見る。</p> <p>(問) 大きな地震が起きるとどうなるのかな？ ※地震発生瞬間の様子の動画を見る。 ※東日本大震災の様子の動画を見る。</p> <p>2 どこにどんな危険があるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 動画を見ることで地震の怖さを想起させるとともに、いろいろな危険があることに気付かせる。 • 動画を見せる時は、被災児童などに十分配慮する。
<p>地震はいつどこで起きるかわかりません。地震が起きたら、どんなところでどんな危ないことがあるのかな？その時に自分ならどうするか考えてみましょう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> • 地震が起きた場所ごとにどんな危険があり、どんな行動をとるかワークシートに書き込む。 <p>(学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 天井から物が落ちる→机の下に隠れる • 壁が崩れる→壁に近寄らない • 転ぶ→その場にしゃがむ • 山やがけが崩れる→山やがけから離れる <p>(通学路)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 塀が倒れる→塀から離れる • 建物の窓ガラスが割れる→建物から離れる • 自動販売機が倒れる→自動販売機から離れる <p>(買い物中)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 陳列棚からの落下物→棚から離れる • エレベーターが停止する →全ての各階停止ボタンを押しドアが開いた階から避難する →非常ボタンを押す <p>(家)</p> <ul style="list-style-type: none"> • たんすが倒れる→テーブルの下に隠れる • 天井からの落下物→頭を座布団などで覆う • 扉が開かなくなる→避難路の確保をする 	<ul style="list-style-type: none"> • ペアになり、地震が起きたらどこでどんな危ないことがあり、どんな行動をとるかを話し合わせ、ワークシートに記入させる。 • 低学年が気を付けることに絞って指導する。 • 危険から身を守るための予想される行動を予めイラストカードにして準備しておき、意見が出るたびに表示する。
<p>3 互いに発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 話し合った内容について発表する。 • 友達の意見を聞いて自分ならどうするか考える。 <p>4 自分なりの約束を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地震が起きた場所によってどんな約束があるかを考え、自分なりの約束をワークシートの吹き出しに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> • 地震が起きたときの行動についてもう一度教師が確認する。

4 他教科や行事等との関連

- 生活科の学校探検などで危険な場所について調べる活動の後と関連させる。
- 地震を想定した避難訓練の事後指導と関連させる。

じしんがおきたらどうする？

なまえ _____



◇じしんはいつおこるかわかりません。じしんがおきたらどんなところで
どんなあぶないことがあるのかな？そのとき、じぶんならどうするかを
かんがえてみましょう。

ば し ょ		どんなあぶないことがあるのかな？	じぶんならどうする？
が っ こ う	きょうしつ (やすみじかん)		
	ろうか		
	かいだん		
	こうてい		
つ う が く ろ	どうろ		
	は し		
	こうえん・ひろば		
	しょうてんがい		
か い も の	しょうひんのたな		
	エレベーター		
	てんじょう		
い え	だいどころ		
	じぶんのへや		
	い ま		
	に わ		

◇じしんがおきたばしよによって、どんなことをやくそくしようかな？

ぼくは (わたしは)、



でじしんがおきたら

ということをやくそくします

◆小学校3・4年生（雪害・風水害）

1 題材名 「雪がい・風水害マップを作ろう」 総合的な学習の時間

2 題材の目標

雪害や風水害が発生した時に、自分の通学路や身の回りに潜む様々な危険について知り、それらの危険を予測し、回避しなければならないことを理解する。

3 展開例

時	主な学習活動及び内容	指導上の留意点
1 時間目	<p>1 雪害の写真と風水害発生時の写真を見る。</p> <p>(問) 雪害や風水害が発生するとどうなるのかな？ ※雪害と風水害発生時の様子の写真を見る ※写真から普段の様子とどこが違うか見付ける</p> <p>2 どこにどんな危険があるか考える。</p> <p>雪害や風水害が発生したら通学路はどうなるのかな？どこにどんな危険があるのか予想して、表や地図に表してみよう。</p> <p>・雪害や風水害が発生した時に、通学路で危険だと思われる場所とその理由について各町内ごとに話し合い、ワークシートに書き込む。</p> <p>(例) それぞれ雪害と風水害に分けて書き込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路 →車幅が狭くなる。見通しが悪くなり危険 ・下水や用水路・融雪溝 →道路との境目が分からない。落ちる危険 ・マンホール →ふたが外れても分からない。落ちる危険 ・民家の軒下 →落雪があると危険 ・坂道や地下道・低い土地 →落雪、深くなっている ・橋や橋の欄干・川 →近付かない。転落や橋が壊れる危険 →上流で雨雲が発生したら川遊びはやめる ・崖 →崖崩れ、雪崩の危険 <p>3 互いに発表し合い、マップにまとめていく。 ・危険箇所を通学路マップに記入していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予め学級を同じ町内ごとにくいつかの班に分け、座らせておく。 ・写真から雪害や風水害の怖さを想起させるとともに、いろいろな危険があることに気付かせる。 ・まず、どんな危険が考えられるかを話し合い、それぞれの町内で該当する箇所があるかどうかに着目させ、ワークシートに記入させる。 ・危険箇所や危険な理由について記入させる。 ・雪害の場合は「降っている時」「積もった後」「解け始めた時」にそれぞれ危険があることも意識させる。 ・大雨はすぐに災害に結び付くことを意識させる。 ・低い土地に住んでいる児童は、普段からすぐに避難することを意識させる。 ・川などの増水した様子は、絶対に見に行かないことを意識させる。
2・3 時間目	<p>4 実際に調べに行こう。</p> <p>実際に通学路の危険について調べてみて、自分達の考えたとおりか、確かめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に調べ、自分たちの考えたことを確かめるとともに必要に応じて修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より具体的に危険箇所を意識させる。
4 時間目	<p>5 修正を加え、マップを完成させる。</p> <p>6 できたマップについて発表する。</p> <p>7 マップ作りの学習を通して、気付いたことや心掛けようと思ったことなどを記入する。</p> <p>8 雪害や風水害が発生したら、自分ならどうするかを約束する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に一枚の学区地図にまとめさせる。 ・自分なら、雪害や風水害が発生した時にどうするかについてしっかりと意識させる。 ・雪害や風水害が発生した時の行動について、もう一度教師が確認する。

4 他教科や行事等との関連

- ・総合的な学習における安全マップづくりと関連させる。
- ・引き渡し避難訓練の事後指導と関連させる。

雪がい・風水がいマップを作ろう

なまえ _____



◇私たちの住んでいる地いきで大雪や大雨がふった時、どのようなきけんがあるのでしょうか？

〔学習の手じゅん〕

- 1 自たから学校までの通学路をかくにんしましょう。
- 2 きけんだと思ふ場所を出し合ひ、そこがなぜきけんなのか話し合ひましょう。
- 3 自たから学校までの通学路で、きけんな場所を色分けしましょう。
- 4 地図に学校のまわりのきけんな場所をまとめましょう。（各はんでマップができたなら発表しましょう）

大雪や大雨の時は、わたしの通学路のここがあぶない

大 雪 の 時	大 雨 の 時

◇雪がい・風水がいマップ作りの学習を通して気づいたことや思ったことなどを記入しましょう。

◇雪がいや風水がいの時、自分ならどんなやくそくをするか書きましょう。



◆小学校5・6年生（津波）

1 題材名 「津波がきたらどうする？～シミュレーション～」 総合的な学習の時間

2 題材の目標

大地震に伴い大津波が発生した時に、それぞれの立場を疑似体験することで、津波の危険から自分の身を守るための判断と方法を考えることの大切さを理解する。

3 展開例

主な学習活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 石碑『地震、海鳴り、ほら津波』の写真を見る。 (問) なぜこんな石碑があるのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震がきたら次は津波がくる。 ・ここまで昔津波がきたのかな？ <p>2 津波発生時の様子（動画）を見る。 (問) 津波が来るとどうなるのかな？ ※東日本大震災の津波発生時の様子の動画を見る。</p> <p>3 地震発生から津波が来るまでの資料を見る。 ・過去に発生した津波の到達時間の資料を見る。 (最初の津波が来るまでの時間) ※日本海中部地震（10数分） ※奥尻沖地震（約10分） ※東日本大震災（約1～30分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の写真から、昔からその地方に伝わる言い伝えを見せることで、津波は昔から発生していたことを想起させる。 ・動画を見せることで津波の怖さを想起させるとともに、津波の危険を回避する方法を考えさせる。 ・動画を見せる場合は被災児童などに十分配慮する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>東日本大震災の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地震発生から津波到達までの時間 ②当時の津波の高さ ③海岸から何キロの所まで津波が来たか </div> <ul style="list-style-type: none"> ・地震の大きさと震源地により到達時間がまちまちであることを知らせる。
<p>それぞれの立場で、津波が発生した時にどのように行動すれば短時間で身の安全を確保できるかについて考えてみましょう。班ごとに分かれて、それぞれどうするか話し合ってみましょう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの立場を考えて避難方法を考え、班ごとに話し合い、ワークシートに書き込む。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りや小さな子どもは短時間に遠くまで逃げられないから、近くのビルの屋上に避難しよう。 ・近くの高い場所（丘など）に逃げよう。 ・車は使わないようにしましょう。でも足が不自由なおじいさんは車を使おう。 ・学年が上の児童生徒は下級生の面倒を見よう。 <p>4 互いに発表し合い、最終的に班の意見をまとめる。</p> <p>5 まとまった意見を互いに発表する。</p> <p>6 この学習を通して気付いたことや普段から心がけようと思ったことなどを記入する。</p> <p>7 津波が発生しそうな大きな地震が来たら、まずどんなことをするか決意表明をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級をいくつかの班に分ける。それぞれの班に役割を与え、それぞれの立場でどうするか話し合わせ、ワークシートに記入させる。 <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※幼稚園の職員、小・中学校の職員、老人ホームの職員、病院の職員、市役所の職員、消防や警察署員等 <ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震を感じたら、まず逃げることや津波警報が出たら解除されるまで海や川に近付かないということを日頃から意識させる。 ・班の中で、なぜそのような行動をとるのかについて十分に話し合わせる。 ・自分は津波に備えて普段からどんなことをするのが大切か考えさせる。 ・津波が発生しそうな大きな地震が来たら、まずどんなことをするか、もう一度教師が確認する。

4 他教科や行事等との関連

- ・道徳の時間で津波体験者の方のお話を聞く活動と関連させる。
- ・総合的な学習の時間で地域の安全マップ作りと関連させる。
- ・地震を想定した避難訓練の事後指導と関連させる。

津波が来たらどうする？ ～シミュレーション～

なまえ _____

◇東日本大震災と同じような津波が私たちの住んでいる地域をおそってきたら、どうすればいいのかな？
いろいろな立場になって考えてみましょう。

学習の手順

◎想定：東日本大震災と同じ規模の津波が地図にあるような地域をおそったとしたらどうなるか？

- 1 マグニチュード9の大地震発生しました。
- 2 地震発生から津波が到達するまで1分～30分かかりました。（東日本大震災の場合）
- 3 津波の高さは約10mに達しました。（東日本大震災の場合）
- 4 津波は海岸線から数kmまで到達しました。（東日本大震災の場合）
- 5 地図にあるような地域に住んでいたとしたら、あなたの立場でどのような行動をとりますか？
- 6 各班で互いにどのような行動をとるか、まとまったら発表しましょう。

いろいろな立場 ・幼稚園の職員、小・中学校の職員、老人ホームの職員、病院の職員、市役所の職員、消防や警察署員 等

◇あなたの立場

【地図】 ※海岸線の町で上記の立場が盛り込まれた地図（仮想）

◇もし、あなたがその立場なら、どのような行動をとりますか？

◇「津波が来たらどうする？～シミュレーション～」の学習を通して気付いたことや、心がけようと思ったことなどを記入しましょう。

◇津波が発生しそうな大きな地震が起きたら、自分は次のことをします。



中学校編

1

『大地震の後、あなたが
とるべき行動は…「TSUNAMI」』

2

『「地震大国日本」
～その時あなたは…』

3

『突然の大雨に遭ったら？』



1 題材名 『大地震の後、あなたがとるべき行動は…「TSUNAMI」』 総合的な学習の時間

2 題材の目標

- 津波の特徴やメカニズムを知り、発災後の被害想定を理解することができる。
- 津波の災害映像を観ることで、地震津波の恐ろしさを知り、正しく安全に避難するための方法を知識として身につけることができる。

3 展開例

主な学習活動及び内容	○指導上の留意点
<p>【I 津波のことをもっと知ろう】</p> <p>1 津波の映像を見て、気づいたことや津波について知っていることを発表しよう。</p> <p>2 津波の特徴について理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波と普通の波との違いを予想しよう。 ・津波がなぜ起こるのかを理解する。 ・東日本大震災を含む大地震では、なぜ高い津波が発生するのか。理由を考える。 ・津波はどの位遠くまで到達するのかを考える。また、津波の流れの強さを確認する。 ・防波堤の仕組みや役目を確認する。 <p>3 学習したことをプリントに記入しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想やわかったことを発表する。 	<p>○津波の流れの速さや強さに注意して見るように示唆する。また、津波の影響で街中がどのように変わってしまうのかをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物だけでなく地形も変わってしまう。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教委作成DVDや当時のニュースから抜粋した映像や写真 <p>○津波と普通の波との違いは「波長」であること、長い波長の津波は数キロに及ぶ長い水の塊が襲ってくることをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川沿いや低地から町中に広がっていく。 ・何度も何度も繰り返し襲ってくる。 <p>○地震によってプレートがずれ、その衝撃で発生した海水面の差が津波になることをおさえる。</p> <p>○巨大な地震によって海底の地形が大きく変化する。</p> <p>○一般的には、入り組んだ地形のリアス式海岸では津波の高さが高くなりやすい。 時間があれば「津波の流れの特徴」もおさえる。</p> <p>①伝播速度 ②浅瀬効果 ③集中効果 ④湾内トラップ ⑤島岬部トラップ ⑥離島部トラップ</p> <p>○映像から、震源地や距離に関係なく、津波が到達することをおさえる。また、50cm程度の津波でも、とても大きな破壊力であることを確認させる。</p> <p>○防波堤で津波の速さや威力は弱まるが、津波自体は防ぎきれないことを理解させる。</p>

<p>【Ⅱ 地震津波から避難せよ】</p> <p>1 青森県周辺で過去に体験した地震の揺れの強さを調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1926年以降の青森県での地震や津波での被災状況を、インターネットや資料で調べる。 <p>2 東日本大震災の津波や被災地の映像を見て、どう対処すれば犠牲にならないかを発表しよう。</p> <p>3 いろいろな場所にいることを想定し、地震の揺れがおさまった後、とるべき行動を話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの場面を想定し、その際の避難場所を白地図に記入する。 ・住んでいる地域のハザードマップをもとに、自分の記入した避難場所が有効かどうか確認する。 <p>4 「津波てんでんこ」に込められた願いや人々の思いについて理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教訓になる部分に下線を引く。 <ol style="list-style-type: none"> ①地震がおさまったらすぐ逃げる。 ②遠い所でなく、高い所へ逃げる。 ③一度逃げたら、決して戻らない。 ④皆と一緒にでなく、一人で逃げる。 <p>5 学習したことをプリントに記入しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想やわかったことを発表する。 	<p>○震度4以上に限定しても、100回を超える地震が発生していることや、過去に発生した大きな地震や津波が、近い将来再び青森県に襲ってくる可能性があることをおさえる。</p> <p>【リンク先】 気象庁>気象統計情報 http://www.seisvol.kishou.go.jp/menu/report.html</p> <p>○まずは「直ちに避難」することをおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直ちに避難するためには、何が必要かを問いかける。 ・津波の前には必ず地震が発生しているので、情報に敏感になることをおさえる。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教委作成DVDや当時のニュースから抜粋した映像や写真 <p>○次の場所を想定させる。</p> <p>①学校 ②自宅 ③低いビル ④高いビル ⑤エレベーターの中 ⑥地下街 ⑦車の中 ⑧高台 ⑨海岸や川 ⑩街の中</p> <p>○時間が足りなくなった時は、家庭での課題にし、後日提出させる。</p> <p>○互いの白地図を見せ合い、情報を共有させる。</p> <p>○「津波てんでんこ」の資料は事前に配布しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の津波の教訓を後世に残そうとした思いをおさえる。 <p>○大きな地震が来たとき、今までの自分の行動と比較させ、今後に生かそうとする気持ちをもたせる。</p> <p>○一人で逃げるのは、時と場合によることをおさえておく。</p> <p>○授業を通して学んだことを「防災標語づくり」としてまとめてもよい。</p>
---	---

4 他教科や行事等との関連

- I ・社会科（地理的分野） ・理科（第2分野） ・特別活動（学級活動）
 II ・国語科 ・理科（第2分野） ・道徳 ・特別活動（学級活動）

____年 ____組 氏名 _____

【津波の特徴】

1 ()の中にあてはまる語句を答えよう。

津波が起こる理由は、海側の (①) が陸側の (①) の下に沈み込み、陸側の (①) がそれにつられて引きずり込まれる。陸側の (①) が引きずりに耐えかね、跳ね上がる現象が (②) である。それと同時に (③) が発生する。また、津波と普通の波の違いは、(④) である。

① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____

2 海岸付近での津波の速さはどの位だろうか。

- A オリンピック短距離選手 (36km/h) B 自動車 (100km/h)
C 新幹線 (250km/h) D ジェット機 (800km/h)

3 津波が高くなる原因を書き出してみよう。

4 津波はどのくらい遠くまで到達するのだろうか。

【津波の判断】

次の質問に○か×で答えよう。また、理由も明確にしよう。

- 1 体に感じない程度の揺れの小さい地震では、津波の心配はない。
- 2 津波が起きるときは、必ず引き潮が起こる。
- 3 津波は、最初の1波が一番大きく、2波3波とだんだん小さくなる。
- 4 予想される津波の高さが0.5mであれば、海岸でなければ避難の必要はない。
- 5 津波から逃れるためには、できるだけ海岸線から遠くに逃げるのが一番である。

〈今日の授業の感想〉

____年 ____組 氏名_____

【調べ学習】

- 1 1926年以降、青森県で発生した地震の回数を調べよう。

リンク先：気象庁>気象統計情報 <http://www.seisvol.kishou.go.jp/menu/report.html>

震度	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7
回									

青森県を襲った、大地震や大津波を調べてみよう。

西暦（和暦）	震源地（名称）	マグニチュード	津波来襲と被害の規模

【避難行動】

- 2 津波の犠牲者にならないために必要なことは何か、書き出してみよう。

- 3 いろいろな場所にいることを想定し、地震の揺れがおさまった後、とるべき行動を話し合ってみよう。

①次の場所を想定する。

- ・学校 ・自宅 ・低層ビル ・高層ビル ・エレベーターの中
- ・地下街 ・車の中 ・高台 ・海岸や川の近く ・街の中

②避難場所を白地図に記入しよう。

③住んでいる地域のハザードマップと照らし合わせてみよう。

- 4 「津波てんでんこ」に込められた願いや人々の思いを書き出してみよう。

① _____

② _____

③ _____

④ _____

〈今日の授業の感想〉

1 題材名 『「地震大国日本」～その時あなたは…』 総合的な学習の時間

2 題材の目標

- 地震発生のメカニズムをはじめとして、地域の災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解することができる。
- 避難訓練や防災体験学習を通して、非常時における危険を認識し、状況に応じて的確な判断のもと、自分や周りの安全を確保するための行動の仕方を理解することができる。
- 災害に対する日常的な備えや学校・地域の防災、被災時のボランティア活動の大切さについて理解を深めることができる。
- 災害発生時、人々を守る体制があり、これらに従事する人々の願いや工夫に気づくとともに、自分自身も生活の中で生かそうとする態度を身につけることができる。

3 展開例

主な学習活動及び内容	○指導上の留意点
<p>【I 地震のことをもっと知ろう】</p> <p>1 青森県における自然災害（地震）や地震発生のメカニズム等について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然災害（地震）クイズを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・問題プリント配布 ○青森県における過去の自然災害（地震）や今後予想される地震について、グループで調べ学習を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを発表する。 ・クイズ形式にしてもよい。 ○DVD教材や資料を見て、地震発生のメカニズムや危険性等について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地震分布の資料を見て、地震はどの辺で起きるのか、予想する。 ・地震が起きる原因を理解する。 ・なぜ「地震大国日本」と言われているのかを考える。 ○地震発生後の二次災害について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・火災発生の防止 ・適切な避難の必要性 ・崖崩れやその後の降雨による土砂災害の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を高めるとともに、個々のもっている知識・理解度を把握する。 ○過去100年の自然災害や今後予想される地震（内陸型地震・日本海側海溝型地震・太平洋側海溝地震）について調べさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの利用 検索Word：気象庁、青森県、防災、地震 等 ○他教科との関連で、社会や理科との横断的な学習も考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・県教委作成DVD教材の活用 ・インターネットの利用 ・プレートの境界付近で大地震が頻繁に発生していることをおさえる。 ・プレートが動くことで歪みが生じ、境界がずれたり崩れたりすることを理解させる。 ・日本列島の周辺には、4つのプレートが重なり合い、地震が多発することをおさえる。 ○時間があれば、地震発生時の地面の揺れ方、住んでいる地域の土地の成り立ちや地盤の地質についてもふれる。 ○地震では、その後に発生する火災が原因となって大きな被害につながることに気づかせ、発生後の適切な行動の必要性への関心を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・大震災の映像 ・土砂災害の映像 ・津波被害については、別時間で指導する。

【Ⅱ 避難訓練に取り組もう】

2 自分の命を守るために避難訓練・防災体験学習をしよう。

○自分自身の安全を確保するために、何に気をつければよいかをグループで話し合う。

【課題】

- ・身の安全を確保するために必要なことは何？
- ・危険な場所や物は何？
- ・自分が必要な人や物は何？

【発表】

- ・付箋紙に記入した内容で関連性があるものをグループ化し、重ねて模造紙に貼り出す。

○避難訓練を通して、災害時における安全な避難行動を確認する。

- ・指示に従い、落ち着いて行動したか。
- ・避難時間計測
- ・ルートと危険物の有無発表

○地震や消火を体験し、防災時の自分の行動について考える。

- ・防災センターや消防本部の職員に来校してもらったり、体験型防災学習施設等を訪問したりして、地震や消火を体験させ、防災知識と技術について体験学習する。

○消防署員や地域の防災担当者からお話を聞く。

○5～7名のグループをつくり、グループごとに想定場所を設定し、ブレインストーミングで話し合いをさせる。

【会議の4原則】

- ・判断・結論を出さない（結論厳禁）
- ・粗野な考えを歓迎する（自由奔放）
- ・量を重視する（質より量）
- ・アイデアを結合し発展させる（結合改善）

【準備物】

- ・色分け付箋紙 ・模造紙

○学校で地震が発生した場合を想定させる。

- ・避難開始場所や時間帯を工夫する。
教室、特別教室、廊下、体育館、運動場 等
休み時間や清掃時、集会時 等
- ・避難途中で危険な場所や物がないかを注意しながら避難させる。
- ・具体的な注意を与え、細かな事象に触れながら安全確保を促す。

○修学旅行や校外学習時の活用も考える。

[消防庁防災館、ソナエリア等]

市民防災ラボ <http://bosailabo.jp/report/museum/>

○自分たちの避難の様子について振り返るとともに、消防署員など関係者からのお話を聞くことで、避難時の自分たちの課題について把握させる。

【Ⅲ 備えあれば憂いなし】

3 災害に対する日常的な備えや災害時におけるボランティア活動等について考えよう。

○災害に対する日常的な備えについて、グループで話し合う。

【課題】

- ・非常持ち出し品のチェックリストを作成しよう。

【発表】

- ・付箋紙に記入した内容で関連性があるものをグループ化し、重ねて模造紙に貼り出す。

○5～7名のグループをつくり、ブレインストーミングで話し合いをさせる。

【準備物】

- ・色分け付箋紙 ・模造紙
- ・ワークシート

<p>○市販の非常袋と自分たちが考えたリストの違いを比べてみよう。また、非常食とはどんなものか、食べてみよう。</p> <p>○災害時の応急処置の技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・止血法、包帯法、人工呼吸法 等 ・応急処置のポイント プリント配布 <p>○学校、地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD教材の視聴 ・消防署員や地域の防災担当者からお話を聞く。 	<p>○発表が終了したところで、市販の袋と内容物を比べてみる。また、調理しなくてよい非常食を試食させる。</p> <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市販の非常持ち出し袋、非常食 <p>○防災センターや消防本部との連携を図り、応急手当の実習を行うことも有効である。</p> <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角巾、包帯、AED、人工呼吸マスク、心臓マッサージ人形、応急処置プリント <p>○自他の生命尊重や社会への奉仕、公共の福祉と社会の発展に尽くすよう努める心の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教委作成DVD教材の活用 ・地域の防災訓練等への参加 等
<p>【IV 防災のことをもっと知ろう】</p> <p>4 防災についてふり返り、学校外における防災について考えよう。</p> <p>○震災の映像を見て、人々の生活について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災した人々の生活の様子 ・発生時の人々の努力や工夫 <p>○避難している人々の思いについても考える。</p> <p>○地震への日頃からの備えについて、グループで話し合い、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの配布 <p>○防災学習を通して気づいたことや、今後自分に必要なことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の自分の行動と必需品 ・我が家の防災（自宅からの避難） ・防災訓練への参加 ・避難生活時の自分の行動 ・災害ボランティア活動への参加 	<p>○避難後の生活について、映像などから想像させ、避難生活の不便さや苦勞について理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD教材や大震災のニュース映像 <p>○不便さだけでなく、避難している人々の助け合いの心や復興への思いについても考えさせる。</p> <p>○日頃からの備えが必要なことなど、自らの安全や命を守ることの重要性の自覚を高めさせる。</p> <p>○ワークシートの記入を通して、これまでの学習や生活をふり返り、防災や減災に向けて、今後自分ができるところをまとめ、話し合う場を設定する。</p>

4 他教科や行事等との関連

- I ・社会科（地理的分野） ・理科（第2分野） ・保健体育科 ・特別活動（学級活動）
- II ・保健体育科（保健） ・道徳 ・特別活動（学級活動、学校行事）
- III ・保健体育科（保健） ・道徳 ・特別活動（学級活動、学校行事）
- IV ・保健体育科（保健） ・道徳 ・特別活動（学級活動、学校行事）

____年 ____組 氏名 _____

【地震Q & A】

問 地震はなぜ起こるのか。()の中にあてはまる語句を答えよう。

日本で起きる地震は、海底の(①)と呼ばれる岩盤が地球の運動により歪み、元に戻ろうとしてずれて起こるものと、内陸にある(②)と呼ばれる地面の裂け目が動いて起こるものと2つのタイプがある。前者は(③)地震と呼ばれ、後者は(④)地震と呼ばれている。前者は多くが(⑤)を発生させるため、注意が必要である。地震速報は、比較的小さな(⑥)波が早く伝わり、大きな(⑦)波は遅く伝わるという現象を利用して行われるが、(⑥)波と(⑦)波がほぼ同時にやってくる(⑧)型地震の速報は困難である。また、砂質地盤では、地震による強い、または長い振動を受けると、砂混じりの水が噴出する(⑨)化という現象が発生し、構造物が傾いたり倒壊する被害が生じている。

① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____ ⑤ _____

⑥ _____ ⑦ _____ ⑧ _____ ⑨ _____

【調べ学習】

地震について、インターネットを使ってグループで調べ学習をしよう。

あなたのテーマは…『 _____ 』

【地震のメカニズム】

なぜ「地震大国日本」と言われているのか、まとめよう。

【地震の二次災害】

1 地震の二次災害にはどのようなものがあるか、考えよう。

2 二次災害の防止のために、どのようなことに気をつければよいか、考えよう。

〈今日の授業の感想〉

____年 ____組 氏名_____

【避難訓練・防災体験学習】

1 身の安全を確保するためには、何に気をつければよいのだろう。グループで話し合おう。

○会議（ブレインストーミング）の4原則

- ・判断・結論を出さないようにしよう。
- ・自由で粗野な考えを大事にしよう。
- ・質より量を重視しよう。
- ・アイデアをつなぎ合わせ、より発展させよう。

○課題

身の安全を確保するために必要なことは何だろう。	
危険な場所や物は何だろう。	
自分が必要な人や物は何だろう。	

2 避難訓練時の自己評価をしよう。

ルートと避難時間は	
危険な場所や物は	
気づいたことや反省	

3 消防署員や防災担当者から話を聞いて、参考になったことをまとめよう。

〈今日の授業の感想〉

____年 ____組 氏名_____

【災害の備え】

- 1 非常持ち出し品のチェックリストを作成しよう。(ブレインストーミング)

1次持ち出し品 (被災1日目が過ぎせる)	
2次持ち出し品 (被災後3日間過ぎせる)	

人と防災未来センター <http://www.dri.ne.jp/oyakudachi/> (作成後、参考にしましょう。)

- 2 市販の非常持ち出し袋と比べてみよう。

市販の持ち出し袋に入っていないくて、自分たちのチェックリストに書き出した物	市販の持ち出し袋に入っていて、自分たちのチェックリストに書いていなかった物

- 3 ボランティア活動をするときの大切な心構えは何か、考えよう。

--

〈今日の授業の感想〉

--

____年 ____組 氏名 _____

【防災】

1 震災や避難生活の映像を見て、どんなことを感じたか。

2 地震に対して、日頃からどのような備えをしていけばよいだろうか。

3 防災や減災のために、今後自分ができることや気をつけて生活していくことをまとめよう。

①災害発生時や避難生活時の自分の行動で心がけることは…

②災害発生時の必需品や持ち出し品の保管場所と内容物のチェックは…

③我が家の防災で、家族の約束事は…

④自宅からの避難ルートと避難場所は…

⑤防災訓練の参加で今後注意したいこと、また災害ボランティア活動へ参加する場合、考えなければならないことは…

〈防災学習を通して気づいたことや感じたことを書こう〉

1 題材名 『突然の大雨に遭ったら?』 総合的な学習の時間

2 題材の目標

風水害は、日本各地で毎年発生する身近な自然災害であることを理解することができる。

また、日本各地の被害の概要を知り、イメージトレーニングをすることで、いつどこで突然の大雨に遭っても、正しく安全に避難することができる。

3 展開例

主な学習活動及び内容	○指導上の留意点
<p>【I 災害図上訓練DIGで水害から身を守れ!】</p> <p>1 大雨に遭ったときのことを考え、グループで話し合おう。</p> <p>○水害について、知っていることを発表しよう。</p> <p>○過去に日本で起きた水害を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豪雨や水害、土砂災害等の映像を見る。 <p>○災害図上訓練DIG（ディグ）による演習に取り組み、自分が住む地域のことをもっと知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が住んでいる地域の自然や街のつくりを地図に書き込む。 <p>【マーカーで書き込む項目】</p> <p>河川・用水路（青）※流れの方向を矢印で 海岸線（青）、道路（赤）、鉄道（黒） 田畑（緑）、広場・公園（紫）※囲み斜線で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害時に役立つ物や組織、場所などは地図にシールを貼る。 <p>【カラーシールを貼る項目】</p> <p>水害防災施設…水門、遊水池（赤） 防災活動期間…役所、消防署、警察署、 医療機関、自衛隊 等（緑） 地域防災施設…避難所・施設、公民館、 学校関係（青）</p>	<p>○同じ町会や地区、家が近所など、1グループ6人前後の班をつくらせる。</p> <p>○単語でもよいので、できるだけたくさんの語句を発表させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水 ・台風 ・土石流 ・集中豪雨 ・大雨 ・鉄砲水 ・ゲリラ豪雨 ・浸水 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、プロジェクター、スクリーン ・映像と資料 <p>○DIG（英＝探究する、理解するの意）の簡単な概要説明と準備物確認</p> <p>Disaster（災害）Imagination（想像）Game（ゲーム）の頭文字で、楽しく自由に活発に意見交換する雰囲気づくりが大事。</p> <p>【準備物】（各班ごと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村白地図（1/2500~1/5000） http://latlonglab.yahoo.co.jp/4x3/ ・透明シート ・6色マーカーペン ・丸型カラーシール ・台紙 <p>○河川や用水路の規模、道路の幅員に合わせてマーカーで書き込む線の太さを変えさせたり、塗りつぶさせたりする。</p> <p>○指定した項目以外に書き込みやシール貼付したいものが出てきた場合は、色を変えて自由に書き込ませてもよい。</p>

○地図を見て、水害のときどのような災害が起こり得るかを考え、地図上にマークし、付箋紙にメモを書き込もう。

【書き込む項目】

- 浸水しそうな地域（青）
- 崖崩れ・土砂崩れ・土石流等がおきそうな地域（赤）
- 水が溢れ出そうな側溝や水路（緑）
- 道路上の雨水・溜まり水（黄）

○水害について整理しよう。

本時学んだことをワークシートにまとめ、自己評価カードを記入する。

【Ⅱ 水害から自分と家族の身を守り抜く】

2 大雨に遭ったとき、どのような行動をとればよいか、イメージトレーニングしよう。

○自宅からの避難について考えよう。

【時間的余裕がある場合の避難】

どこの避難所にどのルートを通って避難すれば安全か、マーカーでなぞってみる。

【時間的余裕がない場合の避難】

急な大雨や避難する機会を逃したと仮定した時、避難所までいくのか、自宅の2階に避難するのか、それとも別の方法があるのかなど、自分のとるべき行動とその根拠を考えて、付箋紙に記入する。

○様々な場面を想定し、とるべき行動を班で話し合おう。

【想定する場面】 弟や妹と一緒に行動して…

- ①河原でバーベキュー
 - ②地下街
 - ③水辺で川遊び
 - ④低い道路（アンダーパス）
 - ⑤山で山菜採り
- ・個人で付箋にとるべき行動をメモする。
 - ・グループ内で発表し合い、まとめる。
 - ・グループの代表者が発表する。

○先の地図シートの上に、透明シートをもう1枚重ね、洪水ハザードマップを参考にしながら、被害状況を書き込ませる。

【準備物】

- ・各市町村別洪水ハザードマップ
- ・4色付箋紙 ・4色マーカーペン
- ・透明シート

○土地の高低差や道路の勾配も考慮させる。

○1で活用したグループで学習を進める。

○ハザードマップは、想定雨量など作成の条件があり、完全ではないこともおさえておく。

【準備物】

- ・1で作成したD I G地図 ・付箋紙
- ・マーカーペン ・洪水ハザードマップ
- ・透明シートを更に1枚重ね合わせる

○気象情報に敏感になることはもちろんだが、正確に予測できるわけではないこともおさえておく。その上で、その時の状況に合わせて、落ち着いて行動することの大切さを理解させる。

【準備物】

- ・場面写真①～⑤
- ・付箋紙 ・ケント紙

○青森県で発生した過去の水害について調べよう。

- ・地域の特徴やその特性による被害、避難時の注意について、グループで調べる。

3 水害についてまとめよう。

○資料を見て、学習のまとめをしよう。

- ・学習したことをプリントに記入する。
- ・家庭でも水害や避難について、話題提供するよう呼びかける。

○青森地方気象台や国交省河川局で出されている資料（ハザードマップ等）を使用するか、時間があればインターネットで調べ学習を行う。

【リンク先】県土整備部河川砂防課

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/kasensabo/>

- ・自分たちの身近に災害発生の条件があることに気づかせる。

○生徒の発表、ワークシートや評価カードで参考になるものや紹介したい内容のものを事前にチェックしておき、指導者から提示し、共有させる。

4 他教科や行事等との関連

- | | | | |
|----|-------------|-----------|----------------------|
| I | ・社会科（地理的分野） | ・理科（第2分野） | ・特別活動（学級活動、学校行事） |
| II | ・社会科（地理的分野） | ・理科（第2分野） | ・道徳 ・特別活動（学級活動、学校行事） |

年 組 氏名 _____

【水害を知ろう】

- 1 水害について、知っていることを書きだそう。

--

- 2 災害図上訓練 D I G (ディグ 英=探究する・理解する、の意) による演習に取り組もう。

※ D I G = Disaster (災害) Imagination (想像) Game (ゲーム) の略

【マーカーで書き込む項目】

河川・用水路→青 (流れの方向を矢印で表す)、海岸線→青

道路→赤、鉄道→黒、田畑→緑、広場・公園→紫 (囲み斜線で表す)

※河川や用水路の規模、道路の幅員に合わせて書き込む線の太さを変えたり、塗りつぶしたりしよう。

【カラーシールを貼る項目】

水害防災施設…水門や遊水池→赤

防災活動期間…役所、消防署、警察署、医療機関、自衛隊等→緑

地域防災施設…避難所・施設、公民館、学校関係→青

※上記の項目以外に書き込みやシール貼付したいものが出てきた場合は、色を変えて自由に書き込もう。

【付箋紙に書き込む項目】

浸水しそうな地域→青

崖崩れ・土砂崩れ・土石流等がおきそうな地域→赤

水が溢れ出そうな側溝や水路→緑

道路上の雨水・溜まり水→黄

※土地の高低差や道路の勾配も考慮しよう。

- 3 今日の授業で学んだことや分かったことをまとめよう。

--

- 4 今日の学習の自己評価をしよう。

(あてはまるところに○を書く)

評 価 項 目	良くできた	大体できた	あまりできない	全然できない
災害図上訓練 (DIG) に仲間と協力して積極的に取り組めたか。				
水害の怖さや被害の大きさが理解できたか。				
自分が住む地域でどのような水害が発生するか理解できたか。				
自分の住む地域の地形や街のことがきちんと理解できたか。				

____年 ____組 氏名_____

【イメージトレーニング】

- 1 自宅からの避難について考えよう。

【時間的余裕がある場合の避難】

どこの避難所にどのルートを通って避難すれば安全か、マーカーでなぞってみよう。

【時間的余裕がない場合の避難】

急な大雨や避難する機会を逃したと仮定した時、避難所までいくのか、自宅の2階に避難するのか、それとも別の方法があるのかなど、自分のとるべき行動とその根拠を考えて、付箋紙に記入しよう。

- 2 様々な場面を想定し、とるべき行動を班で話し合おう。

【想定する場面】あなたは、弟や妹と一緒に行動しています。突然、バケツをひっくり返したような大雨が降ってきました。あなたは、どのように行動しますか。

- ①河原でバーベキュー ②地下街 ③水辺で川遊び
④低い道路（アンダーパス） ⑤山で山菜採り

- 3 青森県で発生した過去の水害について調べてみよう。

西暦（和暦）	名 称	降雨量	被害の地域と規模

- 4 今日の授業で学んだことや分かったことをまとめよう。

- 5 今日の学習の自己評価をしよう。

（あてはまるところに○を書く）

評 価 項 目	良くできた	大体できた	あまりできない	全然できない
水害時の避難場所やルート、留意点が理解できたか。				
水害時に自分と家族の身を守る方法を理解できたか。				
積極的に話し合いに参加し、意見を出したり他の発表を真剣に聞くことができたか。				

～家庭でも、水害や避難について話題提供してみよう。～

高等学校編

1

火災シミュレート訓練

2

家庭内DIG
(Disaster Imagination Game)

3

避難所運営ゲーム「HUG」



1 題材名 火災シミュレート訓練 HR活動

2 題材の目標

火災時における状況を疑似体験（シミュレート訓練）しながら、想像力や判断力を高める。判断の分かれ道を体験することにより、危機意識を高めるとともに、火災への備えを確認する。

3 展開例

主な学習内容と活動	指導上の留意点
<p>1 オリエンテーション</p> <p>①グループをつくり、説明を聞くとともに、グループ内の役割（司会、記録、発表者）を決める。</p> <p>2 シミュレート訓練</p> <p>②教師から示されたクロスロードについて</p> <ul style="list-style-type: none">教師から挙げられた選択肢をワークシートに記入する。A、Bの行動のメリットを記入する。選んだ回答を記入する。 <p>③グループ協議</p> <p>④各グループから発表</p> <p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">火災時の行動に留意すべきことを考える。選択行動のフィードバックを行う。	<ul style="list-style-type: none">火災が起きたら、また発見したら、どのような行動をとるべきか、考えさせる。（行動は2択用意）授業の流れを説明し、ワークシートの使い方を指示する。他の意見を否定しないよう注意する。 <p>【シミュレート訓練 流れ】</p> <ol style="list-style-type: none">5～6人グループある一つの状況に対し、どちらの行動を選ぶか選択する。グループごとに話し合う。グループの代表者が発表する。 <p>【ワークシート活用】</p> <ul style="list-style-type: none">AとBの行動を発表する。ブレインストーミングによりA、Bのメリットを挙げさせ、ワークシートに記入させる（とにかく思い浮かんだことを記入させる）。個々の選択した回答を記入させる（2分）。協議3分発表5分 <p>クロスロード1つごとに発表させることで、思考力や判断力の助長につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none">AとBの選択肢は事前にわからないようにする。 <ul style="list-style-type: none">状況は多様で、A、Bの行動に必ずしも正解がないことに留意させる。危機意識を高めることが、最も重要であることを指摘する。

火災を想定したシミュレート訓練 クロスロード

設問① 昼休み中に廊下を歩行中、理科室から煙が出ているのを目撃した。(あなたは第1発見者)

A：近くにある消火器をもって、消火しに行く。

B：職員室に行き、先生に報告する。

設問② 先生不在の中、避難するよう放送で指示が出た。(あなたはクラスの委員長)

A：率先して外に逃げる。

B：先生が来るのをその場(教室)で待つ。

設問③ 避難の途中、先に逃げたはずの生徒が、負傷して動けずにいる。(あなたはクラスの最後尾)

A：負傷者を自分で抱えて逃げる。

B：救助を呼びに、いったん外に出る。

設問④ 近所で火事が発生。様子を見ると火は外からは見えない程度だが煙はかなり多い。そのとき、中から「ゴホッゴホッ、だれか」と子どもらしき声が。(あなたは第一発見者)

A：(まずは、周りの人や119番に)助けを求めに行く。

B：(まずは、火や煙の状況を見て)可能ならば助けに行く。

設問⑤ 公園で、小学生くらいの子ども4,5人がライターやオイルなどを持って明らかに火遊びをしようとしています。火遊び禁止の看板がありますが、すぐ近くには燃えるようなものはありません。(あなたは公園ベンチにいる人)

A：(まだ火を着けていないから)しばらく静観する。

B：(火遊びは危険で禁止だからと)あらかじめ注意する。

設問⑥ ビルの8階にいた時、「ただ今2階から火災が発生しました。お客様は落ち着いて避難してください」との放送が入った。(あなたは買い物客)

A：すぐに階段を探しに行く。

B：周りの動きを見て行動を決める。

生徒用

火災を想定したシミュレート訓練 ワークシート

設問No. 【 】

回答A

※（教師が話した選択肢を記入する）

回答B

Aのメリット ・ ・ ・	Bのメリット ・ ・ ・
あなたの回答	理由

グループの回答 . . . ()

設問No. 【 】

回答A

回答B

Aのメリット ・ ・ ・	Bのメリット ・ ・ ・
あなたの回答	理由

グループの回答 . . . ()

設問No.【 】

回答A・・・

※（教師が話した選択肢を記入する）

回答B・・・

Aのメリット ・ ・ ・	Bのメリット ・ ・ ・
あなたの回答	理由

グループの回答・・・（ ）

まとめ

○火災時における留意すべき行動を挙げてみよう。

○シミュレート訓練実施前と実施後であなたに変化したところがありますか？

1 題材名 家庭内D I G (Disaster Imagination Game) H R活動

2 題材の目標

地震に際して、避難経路の確認および地震後の電気・ガス・水道が止まってしまう不自由な中、どのように生活するか。そのために、生徒が災害時の状況を想像し、そこで自ら身を守るとともに、被災後の生活を乗り切る能力の育成を目指す。

3 展開例

主な学習活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none">・グループの代表者を決める。・自宅見取図を確認する。 <p>2 D I G訓練</p> <p>①見取り図と家具等の特徴から、各部屋における危険な場所をチェックする。</p> <p>②地震発生後の、避難の手順や注意事項を検討する。</p> <p>③地震発生後の、ガラスの破片や倒れた家具などを考慮し、避難経路と避難場所を考える。</p> <p>(時間に余裕がある場合)</p> <p>④地震発生後も、自宅で生活する場合のことを考える。</p> <p>A：どの部屋で生活するか。</p> <p>B：食料・飲料水はどうするか。</p> <p>C：トイレの問題</p> <p>D：寒さ対策</p> <p>3 発表</p> <ul style="list-style-type: none">・グループの代表者は発表する。 <p>4 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none">・発表された意見を振り返り、今後の目標を再確認する。	<ul style="list-style-type: none">・目標を認識させたうえで、見取図を確認させる。別紙見取図 <p>ブレインストーミング形式</p> <ul style="list-style-type: none">・各部屋の危険箇所を示す。(2分)・思いつくことを多く挙げさせる。(2分) 当たり前のことでも意見を出すことが大切であることを留意する。・チェックした箇所が損壊したものとして、部屋ごとに避難経路を考えるよう指導する。 <ul style="list-style-type: none">・①～③について終了し、残り時間に余裕がある場合は、④も考えさせる。 <ul style="list-style-type: none">・①～③に関して、発表させる。また、意見が同じ場合には挙手させ、他の意見の効率的な集約に努める。・仮想自宅から実際の自宅でD I Gすることが大切なことを指摘する。

家庭内DIG ワークシート

①見取り図と家具等の特徴から、各部屋における危険な場所をチェックする。



②地震発生後の、避難の手順や注意事項を検討する。

③地震発生後の、ガラスの破片や倒れた家具などを考慮し、避難経路と避難場所を考える。

家庭内D I G用教師資料

○地震が起きた時、わが家のここが危険

①見取り図と家具等の特徴から、各部屋における危険な場所をチェックする。

- ・家の耐震性は大丈夫か？
- ・ブロック塀が倒れないか？
- ・靴箱が倒れて玄関のドアが開かなくならないか？
- ・冷蔵庫が倒れないか？
- ・冷蔵後が倒れて食品が散乱しないか？
- ・食器棚が倒れないか？
- ・食器棚の扉があいて中の食器が落ちないか？（その後破片が散乱する）
- ・電子レンジが落下しないか？
- ・窓ガラスや鏡が割れて破片が散乱しないか？また、部屋によっては、破損ガラスが散乱しないか？
- ・テレビが落下しないか？
- ・絵画や掛け時計が落ちてこないか？また、ガラスの部分が割れないか？
- ・吊り下げ照明や蛍光灯が落ちて破片が飛び散らないか？
- ・灯油、ガス、アイロン、ストーブ等の二次災害の要因となるものは大丈夫か？

②地震発生後の、避難の手順や注意事項を検討する。

初期対応である消火の確認をおこなうこと。

身を隠す場所について

- ・食器棚や冷蔵庫、テレビなど、倒れる危険のあるものが近くにないか？
- ・鏡やガラスの近くに避難していないか？
- ・テーブルの下の安全を確保できる場所になっているか？
- ・避難口（出口）まで容易にたどり着ける場所にいるか？
- ・入浴中など身動きできない体勢になっていないか？

その他避難時の注意事項

- ・頭部を保護するもの（頭巾等）を準備することが望ましい。
- ・両手が確保できるようリュックを準備することも考えられる。
- ・破損したガラスなどから守るための軍手があることが望ましい。
- ・避難後の行動を考慮し、防災グッズ（ラジオや電池など）を準備することが望ましい。
- ・歩きやすいスニーカーや動きやすい服装でいることが望ましい。
- ・ワークシートの図にはないが、家族やペットなどへの配慮があるか。

③最後に、考えよう

D I Gでは簡単に正解を出せると思うが実際には思うように行動できないケースがほとんどである。そこで、今回の「家庭内D I G」において取った行動が実際に大規模な地震が発生した場合の迅速な行動と一致することができるのかを考えよう。

1 題材名 避難所運営ゲーム「HUG」

2 題材の目標

大きな災害時では、学校などの施設が避難所となる。生徒が避難所における運営者となって、様々な発生課題に向き合い、グループで解決に向けて検討することで、助け合いの大切さを学習するとともに想像力や行動力、協調性を育み、将来社会に貢献できる人間の育成を目指す。

3 展開例

主な学習内容と活動	指導上の留意点
1 オリエンテーション ・避難所の役割についての説明を聞く。 ・ルールを聞くとともに体育館の施設内の状況を把握する。	・災害時ボランティアと、HUGでの避難所（体育館）状況を説明する。 ・ルールを説明する。
別紙資料を参照し、説明する。	
2 問題の解決への話し合い ・避難所で発生した課題についてグループで話し合う。（5分ごとに課題が発生する）	・各グループに付箋とワークシートを配布し、ブレインストーミング形式で、できるだけ多くの意見を集約する。 ・発生課題を読み上げる。 ・意見を集約したのち、行動をひとつに絞り込む。 ・ワークシートに行動を書き込む。 ・5分経過すると次の課題を発生させる。
3 対応策（グループで決めた行動）意見交換 ・各グループのリーダーが、それぞれの課題についてグループの行動を発表しあう。	・意見交換することで、比較検討する。 ・賛否はせず、出た意見を認めることが大切であることに留意する。
4 まとめ（フィードバック） ・他のグループの意見を聞いたうえでの、自分たちの行動の振り返りを行う。	・必ずしも、正解があるわけではないことを指摘し、広く考える力を養う。

別紙資料

○災害時ボランティアについて

阪神大震災をきっかけに、大きな災害時にボランティアの果たす役割が重要であることが認識されるようになりました。

災害時ボランティアの活動には、避難所や救援活動団体の拠点を中心として、住民の安否確認、高齢者・障害者・子どもの世話、救援物資の配布、炊き出しの手伝い、情報提供、被災者の生活環境の改善などのほか、直接現地へ行かなくても後方からの支援として、義援金や現地ボランティアを支援する募金、あるいは救援物資の送付などさまざまな支援方法があります。災害時のボランティアは通常のボランティアとは異なる対応が求められることに注意しましょう。

○HUG

①避難所の状況

○月△日（日）、午後1時過ぎ、大地震が発生した。部活動を終え、体育館で帰宅の迎えを待つ生徒5～6名は幸いにも無事で、怪我などもない。携帯電話もつながらないまま、しばらくすると付近の住民が次々と体育館に避難してきた。お互い動揺しているものの、学校施設のことについては、住民よりも生徒たちの方が知っているため、頼られる存在となってしまった。また、学校職員、市職員も被災していることが予想され、避難してきたおよそ500名に対し、生徒がグループを組んで、行政が整うまでのボランティアを行うことになり、避難所運営に携わることとなった。

②発生課題例（設定時間により課題の数および発生課題を選択する）

課 題	内 容
1	体育館で喫煙するものが出てきた。運営者としてどのように対応するか。
2	「こちらに避難していないか。」と安否の問い合わせが来た。今後も同じような問い合わせが来る可能性がある。どのように対応するか。
3	ペット（小型犬）を連れてきた避難者に対し苦情がでた。ペットを連れてきた者、苦情を申し出た者、双方に対し、どのように対応するか。
4	避難者500名に対し、300個のパンがある。どのようにして分配するか。
5	発熱し具合が悪いとの申し出があった。どのように対応するか。
6	「教室を使わせてくれ」との申し出があった。教室には誰もいないが、理由もなく使わせると、收拾がつかない恐れがあるため断りたいが、どのように対応するか。
7	乳幼児に授乳したいとの要望が出た。どのように対応するか。

※その他想定される課題を新規に設定してもよい。

③ルール（HUGの進め方）

- ・グループ内でリーダー（進行役）と書記を決める。
- ・発生課題に対し思いつく対応策を、各自付箋用紙に書き数多く出す。（ブレインストーミング形式3分間）グループで、対応策のメリット、デメリットを考慮し、最も適切と思える行動を決定し、ワークシートに書き込む。
- ・5分経過すると、新たな課題が発生する。
- ・前述の課題について行動を決定できていないグループは、複数の課題に同時に取り組む。

④意見交換のしかた

- 教師・・・1つ目の課題の発表者（グループ）を選ぶ。
- 生徒・・・「私たちのグループでは、〇〇は××だから、△△という結論に至りました。ほかのグループではどうしましたか？」
- 教師・・・他のグループを指名する。
- 生徒・・・他のグループの意見を聞き、比較検討する。
- 教師・・・次の課題の発表者を指名する。

実施した課題について、意見交換を繰り返す。

⑤準備物（生徒用）

- ・付箋
- ・ワークシート（模造紙に書き込む形式も可能である）

⑥発生課題に対応するための補足事項

- ・発生課題4について（500名の内訳例）

世帯数 250	男女比	乳幼児	小学生	中高生	成人	高齢者	支給数
1人：90（90人）	45：45	0	10	30	20	30	
2人：100（200人）	100：100	5	10	15	100	70	
3人：30（90人）	45：45	10	10	10	50	10	
4人：30（120人）	60：60	10	10	25	65	10	
合計 500人	250：250	25	40	80	235	120	

体育館の設備について

- ①男女別トイレ有
 - ②ステージあり
 - ③2Fギャラリーは使用不可
 - ④器具庫の鍵は開いている。
- ※自校の体育館を想定することも可能である。

男子 トイレ	フロア	ステージ
女子 トイレ		
器具庫		
出入口		

避難所運営ゲーム（HUG）ワークシート

グループ名 _____

◎避難所で発生した課題について、各グループで話し合って選択した行動（対応策）を考えてみよう！

発生課題1 『

』

あなたたちの行動
※理由を添えて書くこと。

発生課題2 『

』

あなたたちの行動
※理由を添えて書くこと。

発生課題3 『

』

あなたたちの行動
※理由を添えて書くこと。

発生課題4 『

』

あなたたちの行動
※理由を添えて書くこと。

※設定時間により、削除・追加可能

特別支援学校編

1

知的障害小学部（雪害）

「冬道の危険な場所マップを作ろう」

2

知的障害中学部（火災）

「火事になったらどうする？」

3

知的障害高等部（地震）

「地震の時に気をつけること」

4

知的障害高等部（地震）

「避難をするときに大切なことは、
どんなこと？」

5

盲学校（火災）

「安全な避難経路の
メンタルマップをつくろう」

6

ワークシート例



1 題材名 「冬道の危険な場所マップを作ろう」(知的障害・小学部 生活単元学習)

2 題材の目標

- (1) 積雪時における学校周辺の危険な場所を確認し、雪道を歩く時に注意することを、みんなで話し合う。
- (2) 雪道での安全な歩き方を考え、発表する。

3 展開例【【 】は予想される児童の答え、※は学習の中で押さえる事項】

主な学習活動及び内容	指導上の留意点
1 学校周辺の雪道を歩き、危険な場所の状況を知る。 ※雪が高く積もり、車が見えない場所 ※滑る場所 ※氷柱のある家等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標を確認させる。 ・防寒具を着用させる。 ・引率者2名は、列の前後に付き、児童の安全を確認させる。 ※引率者は、危険箇所を写真に撮る。
2 学校に戻り、大きな雪だるまをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・雪だるまを押ししたり、持ったりさせ、雪が重いことを体感させる。
3 雪道を歩き、危険だと思った場所を発表する。 【滑る所、雪で車が見えにくい所等】 ※屋根雪や氷柱の落ちそうな所 ※池、川、排雪溝 ※雪で見づらい横断歩道	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一つずつ考えを発表させる。 ・思い浮かばない時には、撮影してきた写真を見せる。 ※写真を見せ、屋根雪や氷柱に気をつけて歩くように注意する。 ※雪は重いことを丁寧に説明する。 ※池や川、排雪溝に近づかないことにも触れる。
4 準備した学校周辺の地図に、危険箇所の印(注意点)を付け、撮影してきた写真を貼る。	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所と注意事項を確認させる。
5 雪道を歩く時に気をつけることを話し合う。 【ゆっくり歩く、手をポケットに入れないで歩く、防寒靴や長靴を履いて歩く、防寒着を着て歩く等】	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一つずつ考えを発表させる。 ※道路を横断する時には、自動車が止まってから横断するように注意する。 ※雪道を歩く時には、家の屋根雪に注意しながら歩くことを丁寧に説明する。 ※地図の空いているところに、「雪道を歩くときの注意」を記入する。
6 作成した「冬道の危険な場所マップ」を見て、危険箇所と注意事項を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時を想定し、学校周辺のどの地点で、どのような注意をするか、発表させる。

※ 本展開例は、知的障害特別支援学校小学部生活単元学習での学習を想定した展開例です。指導の際は、児童生徒の障害の種類や程度等に応じて、適宜配慮して指導してください。

4 教科等との関連

- ・自立活動
- ・あそびの指導

1 題材名 「火事になったらどうする？」(知的障害・中学部 生活単元学習)

2 題材の目標

- (1) 火事を起こさないようにするために気をつけることを知る。
- (2) 火事の時の適切な行動について知る。

3 展開例【【 】は予想される児童の答え、※は学習の中で押さえる事項】

主な学習活動及び内容	指導上の留意点
1 火事になった時の状況について、発表させ、危険だということを知る。 【家や服が燃える、火傷をする、人が死ぬ、住むところが無くなる等】	※火事の写真や動画を見せる。
2 学校で、火事になった時にどうするかを考えて発表する。 【逃げる、走らない、水をかける、先生の言うことを聞く等】 ※先生の言うことを聞く。 ※窓を閉める。 ※ハンカチで口を押さえ、姿勢を低くして逃げる。	・避難訓練の時の注意事項を思い出させる。 (おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない)
3 家庭で、火事を見つけた時にどうするかを考えて発表する。 【逃げる、消防車を呼ぶ等】 ※その場から逃げる。 ※大きな声で「火事だ。」と叫び、近所の人に伝える。	・考えが出てこない時には、家で火を使う場面の寸劇を行い、考えさせる。 ・火(炎)を見つけた時だけではなく、煙を見た時にも同じような行動をとることを知らせる。
4 火事を起こさないようにするために気をつけることを考える。 【火は大人と一緒に使う、火に近づかない等】 ※一人でコンロなどの火を扱わない。 ※火遊びをしない。	・家庭や学校で火を扱う場面を一つ一つあげて考えさせる。
5 学校や家庭での火事を想定し、適切な行動の訓練をする。	・学校でも家庭でも、火事が起きたら落ち着いて、素早く避難することを確認させる。

※ 本展開例は、知的障害特別支援学校中学部生活単元学習での学習を想定した展開例です。指導の際は、児童生徒の障害の種類や程度等に応じて、適宜配慮して指導してください。

4 教科等との関連

- ・特別活動(避難訓練)
- ・自立活動

1 題材名 「地震の時に気をつけること」(知的障害・高等部 生活単元学習)

2 題材の目標

(1) 地震の時に気をつけることや適切な行動を知る。

3 展開例【【 】は予想される児童の答え、※は学習の中で押さえる事項】

主な学習活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 東日本大震災の時に、学校や家でどのようなことがあったか、また、自分がどのような行動をしたかを発表する。(学校や家庭、地域、TV等) 【停電した、津波が来た、寒かった、先生に従い避難した等】</p>	<p>・自分がどのような行動をしたかを思い出させる。 ※地震だけではなく、その後に発生する火災についても触れる。</p>
<p>2 学校で地震が起きた時に気をつけることを考え発表する。 【机の下に隠れる、頭を守る、先生の言うことを聞く】 ※先生の言うことを聞く。 ※窓を開ける。 ※逃げる時には、頭を守りながら逃げる。</p>	<p>・避難訓練の時を思い出させる。 (おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない)</p>
<p>3 家で地震が起きた時にどうするかをワークシートにまとめ、発表する。 【布団で頭を守る、揺れが収まるのを待つ等】 ※1 テーブル等の下に隠れる。 ※2 揺れが小さくなったら、火の始末をする。 ※3 玄関を開けて、外に逃げる。</p>	<p>・考えが出てこない時には、東日本大震災の時のことを思い出させ、どうすればよいかを考えさせる。 ※建物から逃げる前に、火の始末をすることも確認する。 ※津波の危険のある地域に居住する生徒がいる場合には、津波に注意した行動をとることを伝える。</p>
<p>4 登下校時、地震が起きた時にどうするかをワークシートにまとめる。 ※保護者との連絡方法・内容 ※待避場所 ※注意事項</p>	<p>・各自、数力所分を記入させる。 ※注意事項では、待避している時は、落ち着いて待つことが大切であることを伝える。 ※まとめた内容は、連絡帳等で家庭に伝える。</p>
<p>5 災害を考え、普段から準備できることを考える。 【懐中電灯やラジオ、非常食の準備、家具が倒れないようにする等】 ※非常持ち出し袋の準備 ※連絡方法や避難場所の確認</p>	<p>・東日本大震災後、家庭で行っている対策を発表させる。 ※非常持ち出し袋の準備だけではなく、家族の連絡方法や家族が逃げる場所についても確認するように伝える。 ※家族の連絡方法や家族が避難する場所について、自分の考えをまとめる。 まとめたことは、連絡帳等で家庭に伝える。</p>
<p>6 学校や家庭等での地震を想定し、適切な行動の訓練をする。</p>	<p>※家庭で地震が起きた時の対応(※1～3)について再確認させる。</p>

※ 本展開例は、知的障害特別支援学校高等部生活単元学習での学習を想定した展開例です。指導の際は、児童生徒の障害の種類や程度等に応じて、適宜配慮して指導してください。

4 他教科等との関連

- ・ 特別活動 (避難訓練)
- ・ 自立活動

「地震が起きた時に気をつけること」

名前

1. いえ 家で地震が起きた時に、どうする？

(1) 【	】にかくれる。
(2) 【	】を止める。 ※揺 <small>ゆれ</small> が小さくなったら！
(3) 【	】に逃 <small>に</small> げる。 ※頭 <small>あたま</small> を <small>まも</small> る！

2. とうげこうじ 登下校時に地震が起きた時に、どうする？

(1) 家との連絡方法	
(2) 待っている場所	①
	②
	③
(3) 注意事項	①
	②
	③

※保護者の皆様へ

・家にいる時及び登下校時に地震が起きた時の対応について、学習しました。ご家庭でも御確認ください。

特に、「登下校時に地震が起きた時の対応（１）～（３）」については、ご家庭でも話し合い、御確認の上、月 日（ ）までに、担任へ提出くださるようお願いいたします。

保護者氏名印

1 題材名 「避難をするときに大切なことは、どんなこと？」(知的障害・高等部 特別活動)

2 題材の目標

- (1) 地震の避難時の大切なポイントを確認する。
- (2) 地震を想定した避難訓練で、落ち着いて避難する。

3 展開例

主な活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 地震に関する防災ビデオを視聴して、気をつけることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大きく揺れても慌てない。 ②外には飛び出さない。 ③防災頭巾を着用し、机の下などに隠れる。 ④指導者の指示や放送をよく聞く。 	<p>※この授業では、常に生徒自身が考えることができるように、視覚的な教材や発問の仕方に留意する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省・防災用教材DVD「災害から命を守る・小学校低学年用」を視聴し、避難する時の大切なポイントを確認させる。
<p>2 避難するときのポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「お・は・し・も」の意味を考える。 ②先生の後ろに並んで避難する。 ③避難するときの自分の目標を考える。 	<p>※「お・は・し・も」の意味 「お：おさない は：走らない し：しゃべらない も：もどらない」</p> <p>※「お・は・し・も」の意味や自分の目標をできるだけ自分で考えることができるように、ヒントとなる写真や絵カードを準備する。</p>
<p>3 避難経路を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ①校内の写真や案内図を確認する。 ②階段等危険箇所を実際に確認する。 	<p>※実際の場面でも混乱しないように、教室から避難場所までの経路を指導者と一緒に繰り返し確認する。</p>
<p>4 実際の避難訓練を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①校内放送をよく聞く。 ②一次避難(机下避難)をする。 ③二次避難をする。 「お・は・し・も」に注意する。 ④避難場所で整列し、人員を確認する。 ⑤講評を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・混乱が予想される生徒には、「お・は・し・も」カードや避難場所までの経路図を持たせる。 ・一人ひとりの生徒について、どんな状況どんな場所で混乱するのかを、把握させる。
<p>5 教室に戻って、避難訓練を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①振り返りシートに記入する。 ②反省点等を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが達成感を持つことができるように、シール等も使用させる。

4 他教科や行事等との関連

- ・自立活動

ひなんくんれんを ふいかえろう

小学部



やくそくを まもりましたか？
 ハンカチを もってきましたか？
 先生と いっしょに こうどうしましたか？
 きょうの ひなんくんれんを
 ふりかえってみましょう。

☆どうだったかな？☆

	こうもく	○ △ ×
1	べん強も あそびも すぐに やめた。	
2	大人と 一しょに いた。	
3	わからないことは 大人に 聞いた。	
4	ハンカチで 口や はなを おおった。	
5	ぼうさいずきをんを かぶった。	
6	ひなん場しょの 目じるしが わかった。	
7	おさなかった。 『お』	
8	はしらなかった。 『は』	
9	しゃべらなかった。 『し』	
10	もどらなかった。 『も』	

○…よくできた！
 △…まあまあかな。
 ×…できなかったけれども、
 つぎは がんばるぞ！

○は 10てん
 △は 5てん
 ×は 3てん
 けいさんしてみよう。

おわったら、
 先生に みせよう！

てん

ひなんくんれんを して おもったことを かこう！

避難訓練自己評価シート

中・高等部



やくそく まも ひなん
約束を守って避難できましたか？

わす
ハンカチは忘れませんでしたか？

きょう ひなんくんれん ふ かえ
今日の避難訓練について振り返ってみよう!!

こうどう ふ かえ
☆行動を振り返ってみよう☆

	項 目	○ △ ×
1	ふざけないでまじめに取り組んだ。	
2	先生の指示を聞いて行動した。	
3	放送や伝令を静かに聞いた。	
4	落ちついて行動した。	
5	防災ずきんをかぶった	
6	ハンカチで口と鼻をおおった。	
7	人を押さなかった。 『お』	
8	走らなかった 『は』	
9	しゃべらなかった。 『し』	
10	もどらなかった。 『も』	

○…よくできた！

△…まあまあかな。

×…できなかった。次は頑張る。

○は10点

△は5点

×は3点

で計算しよう。

100点中何点取れたかな？

点

感想

1 題材名 「安全な避難経路のメンタルマップをつくろう」盲学校 特別活動

2 題材の目標

- (1) 常に避難経路をイメージしておき、有事の際に慌てず安全に避難できる。
- (2) 複数のメンタルマップを想定しておくことで、安全に避難できる可能性を高める。

3 展開例

主な活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 火災が発生して、避難する場合のポイントを考える。</p> <p>①ハンカチで鼻と口を押さえる。</p> <p>②ヘルメットをかぶる。</p> <p>③「お」：押さない、「は」：走らない、「し」：しゃべらない、を確認する。</p> <p>④姿勢を低くして避難する。</p>	<p>※放送や指導者の指示をよく聞くように注意する。</p> <p>※指導者は、情報を整理して伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①～④の理由をおさえる。
<p>2 学級における避難態勢を確認する。</p> <p>①授業担当者や弱視生が全盲生の手引きをし、その後に弱視生が続いて避難する。</p> <p>②全盲教員は、弱視生や他の職員の手引きで避難する。</p> <p>③状況により、避難態勢が変わるので、授業担当者の指示に従って避難する。</p>	<p>※具体的に個人名で確認する。</p> <p>弱視生を全盲生の手引き者にする場合は「見え」に配慮して決める。</p>
<p>3 火災発生時の避難場所及び避難経路の確認とメンタルマップづくりをする。</p> <p>①避難経路図を使って、学習場所と火災発生場所の位置関係を確認する。</p> <p>②火災発生場所に応じた、より安全な避難経路を確認する。</p> <p>③頭の中にメンタルマップをつくる。</p> <p>④安全な避難経路のメンタルマップをことばで発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季と冬季とで避難経路に違いがあることに注意させる。 ・避難経路図について、全盲生に対しては、触察できる立体コピーで、弱視生に対しては、「見え」に応じて拡大して作成させる。 <p>※より適切な避難経路の助言を行う。</p>
<p>4 メンタルマップを元に実際に避難し、安全な避難経路を確認する。</p>	<p>※近くに支援者がいない場合でも避難できるようにする。</p> <p>※常に避難経路の確認を行い、安全な避難に心がけることを習慣づける。</p>

4 他教科や行事等との関連

- ・自立活動

火じだ！ どうする？

部	年	氏名	
---	---	----	--

冬は、火じが おこりやすい きせつです。
もし火じが おこってしまったら、どうしたら よいでしょうか。



◇ けいほうベルが 鳴った！

- ◆ ベン強も あそびも すぐに やめましょう。
- ◆ 大人（お父さん・お母さん・先生など）を 大きな 声で よびましょう。
- ◆ 何か 気になることが あっても、かならず 大人と 一しょに いきましょう。
- ◆ 大人の 言うことを 聞いて、行どうしましょう。

◇ あんぜんな ところに にげよう！

- ◆ ハンカチで 口や はなを おおいましょう。
けむりを すいこまないように するためです。
- ◆ 頭や首を、まもりましょう。
学校では「ぼうさいずきん」をかぶります。
- ◆ 学校では、ひなん場しよを **けいよう台の前** と きめています。
じむ長さんが もっている 赤いはたが 目じるしです。
- ◆ ひなんするときの やくそくは「お・は・し・も」。どんな やくそくでしょうか。





火じだ！ どうする？

部	年	氏名	
---	---	----	--

冬は、火じがおこりやすいきせつです。
もし火じがおこってしまったら、どうしたらよいでしょうか。



◇ けいほうベルが鳴った！

- ◆ ベン強も あそびも すぐに やめましょう。
- ◆ 大人（お父さん・お母さん・先生など）を大きな声でよびましょう。
- ◆ 何か気になることがあっても、かならず大人と一しょにいきましょう。
- ◆ 大人の言うことを聞いて、行どうしましょう。

◇ あんぜんな ところに にげよう！

- ◆ ハンカチで口やはなをおおきましょう。
けむりをすいこまないようにするためです。
- ◆ 頭や首を、まもりましょう。
学校では「ぼうさいずきん」をかぶります。
- ◆ 学校では、ひなん場しよを **けいよう台の前** ときめています。
じむ長さんがもっている赤いはたが 目じるしです。
- ◆ ひなんするときのやくそくは「お・は・し・も」。どんなやくそくでしょうか。



お さない

は しらない

し やべらない

も だらない



…安全に避難するために…

部	年	氏名	
---	---	----	--

ひなんくんれん ひなん しかた くんれん
「避難訓練」は避難の仕方の訓練ではありません。

すべ いのち あんぜん たいせつ くんれん もくてき
『全ての命と安全を大切にすること』が訓練の目的です。



◇ 警報ベルが鳴ったら

- ◆ いつでもどこでも行動を中止し、の指示に従いましょう。
- ◆ 授業中ではなく、に警報ベルが鳴ったときは、すぐに近くの先生の所に行って、指示を待ちましょう。
- ◆ 先生が近くにいないときは、を大きな声で叫んで、居場所を知らせましょう。

◇ 伝令が聞こえたら

- ◆ 地震や火事など、みなさんの身に危険なことがあると、必ずが入ります。をやめて、静かに聞きましょう。
- ◆ どこでが起きているかを、先生たちが確認してから伝令が入ります。伝令を聞いたら、すぐをかぶり、を出しておきましょう。
- ◆ 伝令を聞くと、危険な場所や、通ってはいけない場所がわかります。によっては、避難経路が変わることがあります。自分がどの方向に逃げたらいいのか、考えながら聞きましょう。

◇ ひなん 避難するときに

◆ 火事の場合は、教室を出るときに窓やドアを ます。火を燃え広がらせ
ないようにするためです。先生から頼まれたときは、手伝ってください。

◆ 避難するときには をかぶり、ハンカチで と を
守りながら避難します。煙を吸い込まないようにするためです。

◆ 避難場所は **国旗校旗掲揚台の前**です。

◆ 目印は事務長さんが持っている です。

◆ 避難訓練は命を守る大切な訓練です。 に参加しましょう。

◆ 避難するときの約束「お・は・し・も」を、確認しましょう。



…安全に避難するために…

部	年	氏名	
---	---	----	--

「避難訓練」は避難の仕方の訓練ではありません。

『全ての命と安全を大切にすること』が訓練の目的です。



◇ 警報ベルが鳴ったら

- ◆ いつでもどこでも行動を中止し、**先生**の指示に従いましょう。
- ◆ 授業中ではなく、**休み時間**に警報ベルが鳴ったときは、すぐに近くの先生の所に行って、指示を待ちましょう。
- ◆ 先生が近くにいないときは、**自分の名前**を大きな声で叫んで、居場所を知らせましょう。

◇ 伝令が聞こえたら

- ◆ 地震や火事など、みなさんの身に危険なことがあると、必ず**伝令**が入ります。**おしゃべり**をやめて、静かに聞きましょう。
- ◆ どこで**火事**が起きているかを、先生たちが確認してから伝令が入ります。伝令を聞いたら、すぐ**防災ずきん**をかぶり、**ハンカチ**を出しておきましょう。
- ◆ 伝令を聞くと、危険な場所や、通ってはいけない場所がわかります。**場所**によっては、避難経路が変わることがあります。自分がどの方向に逃げたらいいのか、考えながら聞きましょう。

◇ ひなん 避難するときに

- ◆ 火事の場合は、教室を出るときに窓やドアを **閉め** ます。火を燃え広がらせ
ないようにするためです。先生から頼まれたときは、手伝ってください。
- ◆ 避難するときには **防災ずきん** をかぶり、ハンカチで **口** と **鼻** を
守りながら避難します。煙を吸い込まないようにするためです。
- ◆ 避難場所は **国旗校旗掲揚台の前** です。
- ◆ 目印は事務長さんが持っている **赤い旗** です。
- ◆ 避難訓練は命を守る大切な訓練です。 **まじめ** に参加しましょう。
- ◆ 避難するときの約束「お・は・し・も」を、確認しましょう。

お **押さない**

は **走らない**

し **しゃべらない**

も **戻らない**



…安全に避難するために…

部	年	氏名	
---	---	----	--

ひなんくんれん ひなん しかた くんれん
「避難訓練」は避難の仕方の訓練ではありません。

すべ いのち あんぜん たいせつ いのち あんぜん くんれん もくてき
『全ての命と安全を大切にすること＝命と安全』が訓練の目的です。



◇ 警報ベルが鳴ったら、

- ◆ いつでもどこでも行動を中止し、の指示に従うこと。
- ◆ 授業中ではなく、の時は近くの先生のそばに行きます。
- ◆ 先生がいなときは、「を、大きな声でさけんで」居場所を知らせること。

◇ 地震の揺れを感じたら、

- ◆ 頭を保護し、じょうぶなの下など安全な場所に隠れる。
- ◆ あわてて外へ。
- ◆ 上からの落下物にする。
- ◆ エレベーターでは最寄りの階に停止させ、すぐに。

◇ 伝令が聞こえたら

- ◆ 危険なことがあると必ずが聞こえます。をやめて、静かに聞きましょう。

◆ 火事の場合は、どこから が出ているか確認してから、伝令が入ります。
火事とわかったら、すぐ と の準備をします。

◆ 伝令で火元と通ることができない場所がわかります。
火が出た によって、避難経路が変わります。自分がどちらの方向に逃げたらよいか、考えながら聞きましょう。

◇ **避難するときに**

◆ 火事の場合は、教室を出るときに窓やドア をます。

◆ 避難するときには をかぶり、ハンカチを と にあてて避難します。

◆ 避難場所は **国旗校旗掲揚台の前**です。

◆ 目印は事務長さんが持っている です。

◆ 避難訓練は皆さんの命を守る大切な訓練です。 ないで行いましょう。

◆ 避難するときの「おはしも」はなんでしょう。

お
は
し
も

じっさい かじ じしん お とき くんれん けいけん
実際に火事や地震が起こった時も、訓練での経験
 お こうどう
をいかし落ちついて、行動しましょう!!

…安全に避難するために…

部	年	氏名	
---	---	----	--

「避難訓練」は避難の仕方の訓練だけではありません。

『全ての命と安全を大切にすること＝命と安全』が訓練の目的です。



◇ 警報ベルが鳴ったら、

- ◆ いつでもどこでも行動を中止し、**先生**の指示に従うこと。
- ◆ 授業中ではなく、**(昼)休み時間**の時は近くの先生のそばに行きます。
- ◆ 先生がいないときは、「**自分の名前**を、大きな声でさげんで」居場所を知らせること。

◇ 地震の揺れを感じたら、

- ◆ 頭を保護し、じょうぶな**机**の下など安全な場所に隠れる。
- ◆ あわてて外へ**飛び出さない**。
- ◆ 上からの落下物に**注意**する。
- ◆ エレベーターでは最寄りの階に停止させ、すぐに**おりる**。

◇ 伝令が聞こえたら

- ◆ 危険なことがあると必ず**伝令**が聞こえます。**話**をやめて、静かに聞きましょう。

◆ 火事の場合は、どこから **火事** が出ているか確認してから、伝令が入ります。
火事とわかったら、すぐ **防災ずきん** と **ハンカチ** の準備をします。

◆ 伝令で火元と通ることができない場所がわかります。
火が出た **場所** によって、避難経路が変わります。自分がどちらの方向に逃げたらよいか、考えながら聞きましょう。

◇ **避難するときに**

◆ 火事の場合は、教室を出るときに窓やドア **閉め** をます。

◆ 避難するときには **防災ずきん** をかぶり、ハンカチを **口** と **鼻** にあてて避難します。

◆ 避難場所は **国旗校旗掲揚台の前** です。

◆ 目印は事務長さんが持っている **赤い旗** です。

◆ 避難訓練は皆さんの命を守る大切な訓練です。 **ふざけ** ないで行いましょう。

◆ 避難するときの「おはしも」はなんでしょう。

- お さない**
- は しらない**
- し やべらない**
- も だらない**

実際に火事や地震が起こった時も、訓練での経験をいかし落ちついて、行動しましょう!!

